

大学院統合生命科学研究科附属 瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター 農場

約10万坪の敷地を有する広島大学の農場には、家畜飼育施設、管理棟、放牧地、採草地があります。本農場では、教育と研究を目的として、乳用牛、肉用牛、緬羊、山羊を合わせて約100頭飼育しています。また、**中四国地域の大学附属農場において唯一酪農(乳牛)を中心とした施設であることが特色です。**

生物生産技術班／家畜担当



搾乳作業は、自動搾乳ロボットで行なっており、約200トン/年の乳を生産しています。



牛、緬羊、山羊の飼育管理と繁殖、学生の実習と研究の補助が主な業務です。

生物生産技術班／飼料作物担当



牧草地では牛の飼料を生産しています。牛の糞は堆肥となり、草地に還元しています。



飼料作物の栽培と生産、学生の実習と研究の補助が主な業務です。トラクターの整備も重要な仕事です。

大学院統合生命科学研究科附属 瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター 作物生産精密実験圃場

広島大学の作物生産精密実験圃場は、圃場、ガラス室、網室、温室があります。本圃場では、高等植物の機能や特徴を応用した食糧資源の生産、環境の浄化・保全に果たす土壌の役割とその強化法の解明など、**植物生産に関わる教育と研究を目的とした施設であることが特徴です。**

生物生産技術班／精密実験圃場担当



ガラス室・網室・温室では、教育や研究に使用される様々な植物を維持管理し、学生の実習と研究補助をすることが主な業務です。



圃場では、教育や研究に使用される様々な植物を生産管理することが主な業務です。



家禽舎で教育研究のために飼育されているニワトリの堆肥の管理も業務のひとつです。